

令和３年度 学校経営計画

富山県立富山高等支援学校

1 学校教育目標

社会的・職業的自立を目指し、自他を尊重し協調しながら、自己実現と社会に貢献できる心身ともに健康な生徒を育成する。

＜校訓＞ 自立 挑戦 協調

2 学校の特徴

- ・ 本校は、軽度知的障害のある生徒を教育の対象とし、卒業後の一般企業等への就労など、社会的・職業的自立に向けた支援を重視する、高等部のみを置く特別支援学校である。
- ・ 学校の規模は、1学年当たり、3学級24名を定員とし、就労に必要な知識・技能・態度等の基礎を習得するための実習を行う生産・サービス科を設置している。

3 学校の現状と課題

- 昨年度、六期生18名が卒業し、これまでに107名の卒業生を社会に送り出した。これまで卒業生全員が希望する進路先への就職を実現しており、特に過去2年間は全ての生徒が一般企業への就労を果たしている。昨年度は入学生が9名であったが、本年度は、19名が入学し、例年並みの新入生を迎えることができた。今年度も、引き続き「入学者定員を満たすこと」、「全員就職を目指すこと」、「継続的に就労生活をおくる力を高めること」、「自己理解を深め自己管理意識を高めること」を本校の使命として取り組むとともに、授業や実習をとおして生徒一人一人の自己理解の力を高め、昨年度は新型コロナウイルス感染症のため行うことができなかった地域との連携を進め、地域から信頼される学校として充実・発展させることが課題である。

（１）就労できる力を育てる。

- ・ 職業教育に重点を置いた教育活動の推進と一人一人の特性に応じた就労支援の充実。
- ・ 実習（作業学習）や就業体験の系統的な実施及び地域人材や事業所等と連携した専門的な指導の充実。
- ・ 就労に向けた積極的な職場開拓及び職場適応・定着のための職業選択支援の充実。

（２）生活の質を高める力を育てる。

- ・ 就労生活の継続に向けて自律し規則正しい基本的生活習慣を定着させる支援の充実。
- ・ 青年期にふさわしい情操を培い、自己理解を深める支援を充実させるとともに、良好な人間関係を育み、主体的に心豊かな生活ができるような指導の充実。
- ・ 体力の向上及び自らの健康管理や健康的な生活を送ることができるような指導の充実。

（３）地域社会に貢献する。

- ・ 地域資源や人材の積極的活用、地域での実習（作業学習）やボランティア活動などを通しての理解啓発及び社会貢献。
- ・ 県東部の特別支援学校や高等学校における障害のある生徒の就労に関する支援の推進。

（４）安全・安心な教育環境を整備する。

- ・ 安全教育の計画的・組織的な実施と事故防止対策の拡充。
- ・ 危機管理や防災意識を高めるための校内体制づくり。

4 学校教育計画

項 目		目標・方針及び計画	
1	学習活動	目 標	・卒業後の就労を見据え、身に付けておくべき力を整理し、習得するための自己理解能力を高め、必要に応じた支援内容の選択と充実を図る。
	重点 1 ②	計 画	・就職及び就労継続に必要な力を整理し、作業学習及び学校生活での目標を選択するために「到達度チェック表」を作成し、それを元に自己理解を深め、目標達成のための習得度の達成段階を視覚的に理解できるようにする。
		目 標	・教員全体で生徒への支援の方法や工夫を共通理解する場を設定することで、より効果的な指導につなげる。
		計 画	・継続して他班の作業学習に参加する機会を設け、工夫点や支援方法を参考に、自班の支援に生かすことができるようにする。
2	学校生活	目 標	・社会人として健全な自立生活を送るための基盤となる社会常識を身に付け、SNS 等の利用においてもモラルを守ることができるよう社会生活のルールや情報モラルについての学習の充実を図る。
	重点 2 ⑧	計 画	・規範意識の向上のための指導を、学年・学級、または個別に実施する。 ・学年や分掌、教科等と連携し、健全な自立生活を送るための知識や技能を身に付けることができるよう、必要に応じて外部講師等による講習会を実施する。 ・講習会実施後、ワークシートを活用して振り返り学習をする機会を設定し、学習の定着を図るとともに、教員間の生徒の実態理解を深める。
		目 標	・放水等実際を想定した火災訓練等を実施し、防災教育の充実を図る。
		計 画	・実際の火災を想定し、消火栓からの放水等の対応についてシミュレーションし、教職員間で共通理解を図る。 ・火災、地震発生時の状況や安全な避難方法について指導を行い、シューター等の利用を含め、落ち着いて安全・迅速に避難できるよう指導の充実を図る。
		目 標	・将来の自立した生活のために生活習慣を考える機会を設定し、自己管理しようとする意識と態度を育て、基本的生活習慣の確立を図る。
		計 画	・生徒が自分の生活習慣を振り返る期間を設定し、自ら改善点を考え、自立した生活を送ることができるよう継続して健康チェックを実施する。スマートフォンの使用時間等家庭での生活リズムや生活習慣も項目に加え、健康チェックの結果を家庭との連携を図りながら生活改善に取り組めるようにする。
		目 標	・学校生活や家庭生活における支援体制を整え、ニーズに合わせた支援の充実を図る。
		計 画	・行動観察や面接等による生徒の情報を教員間で共有し、必要に応じてサポート会議等を開き、支援体制を整備する。 ・適時に質の高い支援が行えるよう、一斉メール等を利用し、家庭との連携を密にし、地域、関係機関との連携・協力の充実を図る。

3	進路支援	目 標	・生徒、保護者の就労に向けての意識を高めるため、雇用状況等の情報や就業体験報告会等の参観機会を設けるなど、情報提供の場の設定や情報の発信を行い、就労への意識啓発を図る。
		計 画	・学校の進路指導の取組状況や生徒・保護者の意見・感想等を周知する。 ・障害者雇用率や最低賃金など障害者雇用の現状や社会の流れ等の情報を生徒・保護者に提供する。
		目 標	・教員向けの進路研修会を実施し、進路指導への理解を深め、教員の生徒・保護者への就労意識を高める指導の充実を図る。
		計 画	・教員が就労に関する理解を深め、学校全体で生徒・保護者への就労意識を高める指導ができるよう、教員対象の進路研修会を一層充実させる。
4	特別活動	目 標	・地域交流を推進し、地域に貢献できる生徒の育成及び理解啓発を図る。
		計 画	・地域行事への参加や地域の方々とふれあう機会を利用し、地域交流を継続する。 ・学校行事等の情報を発信し、状況に応じた地域との交流の機会を設け、地域に開かれた学校としての推進を図る。
		目 標	・生徒会活動を中心に、生徒自身に学校をよりよくするための方策を考える場を設け、学校行事等の活動を通して、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を養う。
		計 画	・生徒会を中心に、学年を超えて協働する行事（体育大会、文化祭、委員会活動など）の計画や運営を主体的に行える環境作りに努め、達成感を味わわせる。
5	その他 (情報) 重点3⑨	目 標	・ <u>生徒の正しく安全なICT機器の利用の促進のため、教員の指導力向上を目的としたSNSの利用方法や情報モラルに関する研修等を実施する。</u>
		計 画	<u>・校内研修の実施計画に情報モラル研修の機会を加える。</u> <u>・教員の実態やニーズを考慮し、グループでの研修を行ったり、時間的制約の少ないオンライン研修の情報提供や受講勸奨をしたりする。</u> <u>・教員1人1台端末環境の整備を見据え、授業や支援に活用できるアプリ等の情報や活用例を提供する。</u> <u>・全国の実践例や障害者ICT支援センター等の情報等から有用な情報を選択し、紙面回覧やグループウェアで周知を図る。</u>
		目 標	・入学者確保に向けた中学校等の生徒や保護者、教員への理解啓発及び教育相談の充実を図る。
		計 画	・県東部の中学校を個別訪問し、本校について説明するとともに、オープンスクール等の内容を対象者のニーズに合うように工夫し、本校への理解を得られるようにする。また、中学校訪問時に学校の状況に応じた説明を行い、適切な進路選択の一助となるよう努める。 ・中学校等訪問の際、学校案内パンフレットや学校紹介リーフレットを配付するとともに、タブレット端末を使いプレゼンテーションを行うことで、学校の理解啓発を継続的に推し進める。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和3年度 富山高等支援学校アクションプラン —1—		
重点項目	学習活動	
重点課題	卒業後の就労生活を見据え、必要な力の整理と習得を目指すための支援の充実	
現 状	本校の生徒は、卒業後の就労と自立した生活に向け、就労意欲や働くためのスキルの向上を目指した学習に取り組んでいる。特に作業学習を学習活動の中核と位置づけ、地域・地元企業と連携しながら生徒の働く力を高め、就労に必要な知識・技能・態度等を身に付けられるよう取り組んでいる。 一昨年度から実施している作業学習の互見授業は、各班の活動を知る良い機会となったが、指導のポイントや目標に沿った支援の仕方、振り返りの仕方など各作業班独自の一連の取組を知るには時間が足りなかったと思われる。また、互見授業の実施時期が3学期であったため、各班の工夫や支援は見る事ができたが、自班へ持ち帰り、改善を行った後の効果については十分に検証することができていない状況である。	
達成目標	他班の作業学習（授業）への参加	改善点についての教員による振り返りの実施
		指導の改善案の作成・実施
方 策	5つの作業班のうち、所属経験のある班が2つ以下の教員及び希望者を対象に、他班の作業学習への参加（1日）を実施する。参加教員は、他班での指導で得たことを自班の担当教員間で共有し、自班の作業学習の指導の改善案を作成する。 - 他班への授業参加の実施時期を2学期中に設定する。 - 改善を行った点について、班所属教員で振り返りを行い、全教職員で共有する。	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和3年度 富山高等支援学校アクションプラン —2—		
重点項目	学校生活	
重点課題	社会人として健全な自立生活を送るための基盤を養う指導の充実	
現 状	①規範意識に課題がある生徒が多い。 - 実際に行動選択をする際には、「やってもたいしたことないと思ったから」、「みんなもやっているから」などと、やってはいけないと分かっている方を安易に選択してしまうことが見受けられ、繰り返しの指導が必要である。 ②社会常識・モラル等について、知識・技能を正しく身に付ける必要がある。 - 自身の偏った認識や間違った理解に気付かなかったり、他者の立場に立つ意識が未熟であったりするために、ネットトラブルやコミュニケーション上のトラブル等が生徒間で起きやすい傾向がある。 - 情報モラル、適切なコミュニケーション、薬物乱用防止等に関して指導の積み上げを図り、自身で判断したり周囲の人や関係機関に相談したりして、適切に対処できる力の向上を図り、健全な自立生活を送れるようにする必要がある。	
達成目標	①生徒の実態に応じた規範意識向上のための指導と事後のケアの実施	②社会常識・モラル等に関する知識・技能向上のための講習会の実施
		講習会（指導）の振り返り学習の実施（3回）
方 策	- あらゆる学習活動や生徒指導の機会を捉え、規範意識の向上のための指導をするとともに、生徒の実態や必要に応じて学年・学級単位で、または個別に実施する。また、課題のある生徒には継続的に目配りする。 - 学年や分掌、教科等と連携し、社会人として健全な自立生活を送るための知識や技能を身に付けることができるよう、関係機関等の協力を得て外部講師等による講習会（指導）を実施する。 - 講習会（指導）の実施後、ワークシートを活用して振り返りの学習を行い、学習の定着を図るとともに、教員間の生徒の実態理解を深める。	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和3年度 富山高等支援学校アクションプラン — 3 —

重点項目	学習活動 その他（情報）	
重点課題	情報モラル教育の充実と ICT 機器を活用した授業づくりのための技能の向上	
現 状	- 生徒1人に1台のタブレット端末が配備され、ICT機器の使用が身近になるに従い SNSの利用方法や個人情報の取扱いなど、ネットトラブルが懸念される。そのため生徒への情報モラル・情報セキュリティに関する指導が重要となっているが、教員の指導するための知識やスキルが十分とは言えない。 - 教員のICT機器の知識・技能には個人差があり、一人一人がICT機器をより効果的に活用して授業を行うためには、知識の蓄積や技能の向上が必要である。 - 令和3年3月、本校の「教員の ICT 活用指導力等の実態調査」では、評価が高くなった教員の割合は65%（達成目標 40%以上）であったが、ICT 教育推進事業の共通目標である「教員の ICT 活用指導力 100%の実現」には達していない。	
達成目標	①SNS の利用方法や情報モラルに関する研修等の回数	②指導力等の評価が高くなった教員の割合 ※令和3年2月と令和4年2月の「教員のICT活用指導力等の実態調査」の結果の比較
	3 回以上	4 0 %以上
方 策	- 研修部と連携して、通年の校内研修実施計画に情報モラル研修（11月）の機会を設ける。 - 教員の実態やニーズを考慮し、グループでの研修の機会を設けたり、時間的制約の少ない県内外のオンライン研修の情報提供や受講を勧奨したりする。 - 教員1人1台端末環境の整備を見据え、授業や支援に活用できるアプリ等の情報や使用例を提供する。 - 全国の実践例や障害者 ICT 支援センター等の情報等から有用な情報を選択し、紙面回覧やグループウェアで周知を図る。	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）